

Title	平成十九年度退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2008, 48, p. 167-172
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/7836
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

平成十九年度

退職教員略歴・主要業績

林 正則 教授 西洋文学・
語学講座 (ドイツ文学)

柏木 隆雄 教授 西洋文学・
語学講座 (フランス文学)

はやし まさのり
林 正則 教授 略歴・主要業績

1944年8月7日 岐阜県海津郡生まれ

略 歴

- 1963年(昭和38年)3月 大阪府立豊中高等学校卒業
 1963年(昭和38年)4月 大阪大学文学部入学
 1967年(昭和42年)3月 大阪大学文学部独文学専攻卒業
 1967年(昭和42年)4月 大阪大学大学院文学研究科ドイツ文学専攻修士課程入学
 1970年(昭和45年)4月 同上修了
 1970年(昭和45年)5月 大阪大学文学部助手(独文学専攻)
 1975年(昭和50年)3月 同上辞任
 1975年(昭和50年)7月 DAAD(ドイツ学術奉仕団)奨学生としてドイツ連邦共和国ボン
 大学に留学(1976年9月帰国)
 1976年(昭和51年)10月 大阪大学言語文化部講師
 1981年(昭和56年)2月 大阪大学言語文化部助教授
 1990年(平成2年)4月 大阪大学文学部独文学専攻助教授に配置換
 1996年(平成8年)1月 大阪大学文学部教授
 1999年(平成11年)4月 大阪大学大学院文学研究科教授
 2003年(平成15年)4月 大阪大学評議員(2006年3月まで)

学会関係役員

- 阪神ドイツ文学会幹事(1988年4月～1992年3月, 1994年4月～1997年3月)
 日本独文学会理事(1995年5月～1999年4月)
 阪神ドイツ文学会会長(2006年4月～2008年4月)
 日本ゲーテ協会評議員・理事(2003年6月～現在)
 日本ヘルダー学会常任理事(1994年4月～2006年3月)

主要業績

〔著 書〕

- 『ドイツ短篇小説の展開』〔共著〕クヴェレ会(昭和55年1月)
 『ドイツ市民劇研究』〔共著〕三修社(昭和61年6月)
 『異文化の交流』〔共著〕大阪大学出版会(平成8年11月)
 『仮面と遊戯—フリードリッヒ・シラーの世界』〔共編著〕鳥影社(平成13年7月)

〔学術論文〕

- 「運命と犠牲 — 『親和力』をめぐって」大阪大学文学会『待兼山論叢』第7号 (pp. 25-39.) 1974.1.
- 「ゲーテの自然研究 — Morphologie, Farbenlehre を中心に」『神戸女子薬科大学人文研究』第5号 (pp. 23-36.) 1978.2.
- 「『植物のメタモルフォーゼ』の言語表現 — ゲーテの自然科学を理解するための一つの試み」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第22巻 (pp. 143-158.) 1980.10.
- 「象徴的ノヴェレとしての『五十歳の男』について」科研研究成果報告書『ドイツ短篇小説の歴史と理論』(pp. 1-17.) 1983.3.
- 「精神のモルフォロジーとしてのゲーテ『色彩論・歴史篇』」ゲーテ自然科学の集い『モルフォロギア』第8号 (pp. 16-29.) 1986.10.
- 「ゲーテの自然科学とフランス革命」日本独文学会『ドイツ文学』第82号 (pp. 22-32.) 1989.3.
- 「直観・悟性・言語 — 色彩論に関するゲーテとシラーの往復書簡をめぐって」大阪大学「独文学報」刊行会『独文学報』第6号 (pp. 1-18.) 1990.10.
- 「イタリアの光と闇 — ゲーテ『ローマのカーニヴァル』をめぐって」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第33巻 (pp. 105-122.) 1991.10.
- 「ゲーテにおける自然科学と言語 — ローマン派との接点を求めて」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第36巻 (pp. 73-88.) 1994.10.
- 「『旅日記』から『イタリア紀行』へ — ゲーテ「古典主義」の生成をめぐって」大阪大学ドイツ文学会『独文学報』第11号 (pp. 39-58.) 1995.11.
- 「ゲーテのパラディオ「巡礼」 — アウトノミー美学成立の一側面」大阪大学文学会『待兼山論叢』第29号 (pp. 23-42.) 1996.12.
- 「風景画家としてのアーモル — ゲーテとイタリアの風景」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第39巻 (pp. 1-19.) 1997.10.
- 「クラクフの途上にて — 1790年・ゲーテのシュレージエンの旅」日本ゲーテ協会『ゲーテ年鑑』第42巻 (pp. 13-30.) 2001.10.
- 「近代ドイツにおける空間変容と旅の記述」 科研研究成果報告書『近代ドイツにおける空間経験の変容とその言語表現』(pp. 1-8.) 2002.3.
- 「アンタイオス・ゲーテとメタモルフォーゼする「風景」 — W. ブッシュの『イタリア紀行』論をめぐって」『大阪大学文学研究科紀要』第43巻 (pp. 73-91.) 2003.3.
- 「牧歌か悲歌か？シラーの『素朴文学と情感文学』から見たゲーテの『アレクシスとドーラ』」大阪大学ドイツ文学会『独文学報』第20号 (pp. 73-92.) 2004.11.

柏木 隆雄 教授 略歴・主要業績

略 歴

- 1944年8月10日 三重県松阪市に生まれる
- 1963年3月 三重県立松阪工業高校工業化学科卒業
- 1963年4月 住友金属工業株式会社入社（1965年3月まで）
- 1969年3月 大阪大学文学部（仏文学）卒業
- 1971年3月 大阪大学大学院文学研究科修士課程（仏文学）修了
- 1975年3月 同大学院文学研究科博士課程（仏文学）単位修得退学
- 1975年4月 神戸女学院大学文学部専任講師
- 1978年4月 神戸女学院大学文学部助教授
- 1981年10月 パリ第七大学第Ⅲ期博士課程入学
- 1982年6月 パリ第七大学第Ⅲ期博士学位取得
- 1983年4月 大阪大学文学部助教授
- 1991年4月 大阪大学文学部教授（仏文学講座）
- 1999年4月 大阪大学大学院文学研究科教授（フランス文学専門分野）
- 1999年4月 日本学術審議会専門委員（2000年3月まで）
- 1999年6月 大阪大学評議員（2001年3月まで）
- 1999年8月 フランス共和国文部省よりパルム・アカデミック勲章（シュヴァリエ）受章
- 2001年6月 日本フランス語フランス文学会副会長（2005年5月まで）
- 2003年6月 大学評価・学位授与機構評価専門委員（2004年3月まで）
- 2004年4月 大阪大学大学院文学研究科長、文学部長（2006年3月まで）
- 2006年6月 日本フランス語フランス文学会関西支部長（2009年5月まで）

主要業績

〔単著書〕

- La Trilogie des Célibataires d'Honoré de Balzac*, Paris, Nizet, 1983年10月
- 『イメージの狩人 評伝ジュール・ルナール』, 臨川選書17, 臨川書店, 1999年4月
- 『謎とき「人間喜劇」』, ちくま学芸文庫, 筑摩書房, 2000年5月
- Balzac, romancier du regard*, Paris, Nizet, 2002年10月
- 『交差するまなざし』, 朝日出版社, 2008年3月

〔共著書〕

- 『幻想空間の東西 — フランス文学をとおしてみた泉鏡花』「妖異の語り方 — 泉鏡花とフランス文学 —」, 十月社, 1990年1月
- 『異文化の交流』「留学の効用」, 大阪大学出版会, 1996年10月
- 『バルザック — 生誕200年記念論集』「『アルベール・サヴァリユス』 — 声とまなざし —」, 駿河台出版社, 1999年10月
- 『ヴィクトリア朝 — 文学・芸術・歴史 — 松村昌家教授古稀記念論集』「ディケンズとフランス」, 英宝社, 1999年11月
- 『バルザックとこだわりフランス ちょっといい旅』「読者のみなさんへ」「バルザックと地理」, 恒星出版, 2003年3月
- 『エクリチュールの冒険 — 新編・フランス文学史』「エクリチュールの冒険 — フランス文学の醍醐味 —」「市民演劇の展開」「市民小説の系譜」「あとがき」, 大阪大学出版会, 2003年12月
- 『フランス文学小事典』, 朝日出版社, 2007年3月

〔論文〕

- Scènes de la vie privée* の世界 — 『人間喜劇』論の序章として —, 『待兼山論叢』第8号, 1975年2月
- 漱石とメリメ — 美彌子の肖像をめぐって —, 作家の世界『夏目漱石』, 番町書房, 1977年11月
- バルザック『ユルシュル・ミルウエ』の構造と意味, 『神戸女学院大学論集』第69号, 1978年7月
- Eugénie Grandet* における *lumière*, 『フランス語フランス文学研究』第35号, 1979年10月
- 小説『ピエレット』の成立, 『神戸女学院大学論集』第76号, 1979年12月
- バルザック『ラ・ラプイユーズ』考 — フロール・ブラジエの生をめぐって —, 『神戸女学院大学論集』第81号, 1981年10月
- パリ — 1831年の文学的構図 —, 大阪大学文学部共同研究センター共同研究論集第2輯「都市史をめぐる諸問題」, 1984年8月
- La structure et la signification des Parisiens en province, Etudes de langue et littérature françaises*, n° 50, 1987年3月
- 出会いの詩学 — 『谷間の百合』における愛と死 —, 『愛と死 — エロスのゆくえ —』, 大阪創元社, 1987年10月
- 鏡花・メリメ・ユゴー — 受容の問題 —, 『文学』第57巻第9号, 岩波書店, 1989年9月
- 明治文学とフランス文学, 『日本文学と外国文学 — 入門比較文学 —』, 英宝社, 1990年8月

- 『いとこベット』の深淵 — ヴァレリイ・マルネフの性, 『性のポリフォニー — その実像と歴史をたずねて』, 世界思想社, 1990年10月
- 墓地からの光景 — ロマン主義時代の文学的トポス, 『フランス・ロマン主義と現代』, 筑摩書房, 1991年3月
- 小説家ジュール・ジャン, 『流域』第30号, 1991年7月
- Le cimetière parisien et le destin des héros romantiques — Un essai sur le topique du romantisme —, *Equinoxe*, n° 9, 1993年6月
- Catherine Lescault, qui est-ce? — *Le Chef-d'œuvre inconnu*, roman d'amour ou roman de peinture? — (2), 『待兼山論叢』第27号, 1993年12月
- Le Chef-d'œuvre inconnu*, conte d'amour ou conte de peinture?, *Equinoxe*, n° 11, 1994年4月
- テキストの変貌 — 『知られざる傑作』を読む —, 『ユリイカ』12月号, 青土社, 1994年11月
- Émile Zola à l'aube de la littérature japonaise contemporaine, *GALLIA*, XXXV, 1996年3月
- ジュール・ルナールの挑戦, 『象徴主義の光と影』, ミネルヴァ書房, 1997年10月
- フランス古典主義演劇とその理論, 『芸術学フォーラム7 文芸・演劇の諸相』, 勁草書房, 1997年12月
- Daumier et Balzac, *Balzac et la peinture*, Musée des beaux-arts de Tours, 1999年5月
- La Poétique balzacienne sur *Facino Cane*, *L'Année balzacienne 1999*, 2000年12月
- Cent ans d'études balzaciennes au Japon, *GALLIA*, XL, 2001年3月
- L'échec de la Reine de cœur, un homme et une femme dans *Le Bal de Sceaux*, *Balzac loin de nous, près de nous*, Surugadai-shuppansha, 2001年4月
- La voix et le regard dans *Albert Savarus*, *Equinoxe*, n° 19, 2001年5月
- いとこボンスのコレクション, 『バルザックを読む1』, 藤原書店, 2003年4月
- ゾラ, 紅葉, 荷風 — 明治文学の間テキスト性 —, 『ゾラの可能性 表象・科学・身体』, 藤原書店, 2005年6月
- 「無神論者のミサ」論, 『シュンボシオン — 高岡幸一教授退職記念論文集』, 朝日出版社, 2006年3月
- 「フランス」との邂逅, 『日仏交感の近代 — 文学・美術・音楽 —』, 京都大学学術出版会, 2006年5月
- Démons et revenants dans les *Contes de pluie et de lune* d'Uéda Akinari, *Figures du fantastique dans les contes et nouvelles*, Publications Orientalistes de France, 2006年10月